

IR説明会資料

2021年3月期決算
中期経営計画 Vision2025 説明

黒田精工株式会社
(証券コード：7726)

2021年6月7日

目次

1. 会社概要、事業内容
2. 2020年度（2021年3月期）業績
3. 新中期経営計画 Vision2025

1. 会社概要 事業内容

社 名	黒田精工株式会社
代 表 者	代表取締役社長 黒田 浩史
本 社	神奈川県川崎市幸区
創 業	1925年
上 場 市 場	東京証券取引所第2部
資 本 金	1,902百万円
従 業 員 数	連結 617名
主 要 事 業	駆動システム事業、 金型システム事業 機工・計測システム事業

経営理念



精密技術を通じて世界の
産業高度化をサポートする

常に新しいものに挑戦し
新しい価値を創造する

行動理念



90年以上に渡る精密の歴史と信頼

創業期

1925 日本最初の專業ゲージメーカーとして創業
1935 ブロックゲージの製造販売を開始

技術基盤
の確立

1946 精密プレス金型 製造販売開始
1953 平面研削盤 製造販売開始
1961 東京証券取引所に上場
1962 ボールねじ 製造販売開始

技術開発
と新事業

1978 型内積層金型「FASTEC」製造販売開始
1987 超精密鏡面加工機スーパーポリシャー製造販売開始
1991 超精密表面形状測定装置ナノメトロ製造販売開始

事業再編と
グローバル化

2005 車載 HEV 用モータコア量産開始
2008 金型内自動接着積層システム「Glue FASTEC」開発
2012 JENA TECグループを買収
2014 伊 Euro Group と業務提携 米国テネシー州に合併会社
2016 Glue FASTECコア 量産車車載用モータへの採用
2019 かずさアカデミア工場新棟竣工 自動化ライン整備

グローバルネットワーク

KURODA

Jenaer Gewindetechnik
GmbH (独)



平湖黒田精工
有限公司 (中)



韓国黒田精工
株式会社 (韓)



Eurotranciatura USA
LLC (米) 合併会社



KURODA JENA TEC
Inc. (米)



EUROGROUP SPA
(伊) 提携先

Euro MISI
Laminations (中)
提携先



KURODA Precision Industries
(M) SDN BHD (マレーシア)

日本国内 Headquarters

【国内関連会社】
クロダイインターナショナル(株)
(株)ゲージング、日本金型産業(株)



かずさアゲシア工場



旭工場



長野工場



富津工場

Eurotranciatura Mexico
SA de CV (メキシコ)
提携先

【国内販売ネットワーク】
本社営業部、名古屋支店、
大阪支店、京都営業所、
太田営業所、西東京営業所、
長野営業所

駆動システム事業

金型システム事業

機工計測システム事業

精密ゲージ製造のノウハウ「必要なものは自ら作る」
⇒ 自社製研削盤、計測器、治具

例) 自社製ボールねじ
⇒ KURODA製研削盤
⇒ KURODA製精密金型



精密
加工

ラップ・ポリシング技術
高精度測定・計測技術
高精度研削技術
高精度把持技術
組付け技術
解析技術

例) 自社製ねじ研削盤
自社製リード測長機
⇒ KURODA製ボールねじ
(製造、精度測定、検査)

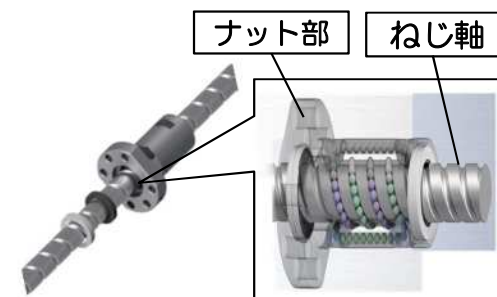


精密
測定

ねじゲージで培った技術を用いて高精度ボールねじ、直動関連機器を製造

【ボールねじとは】

- ・モーター等の回転運動を直線運動に変換する機械要素
- ・機械の正確な動作、位置決めに不可欠な要素部品
- ・ねじ軸とナット部で多数の鋼球が転がりながら無限循環することで、高い動作効率を実現できる。



研削ボールねじ



転造ボールねじ



BSアクチュエータ



サポートユニット



用途例



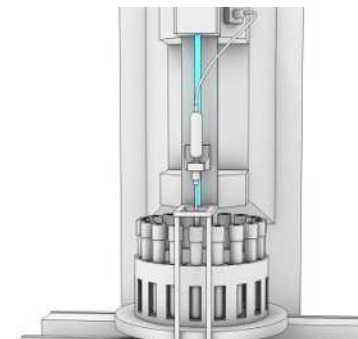
半導体製造装置



工作機械



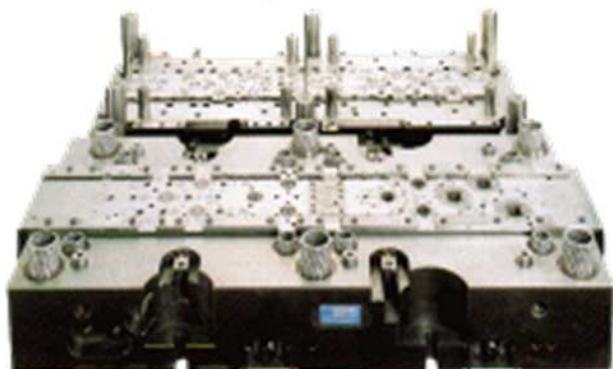
遠隔手術ロボット



検査・分析装置

精密治具などの研磨技術を原点として、
精密積層プレス金型、モーターコア等の積層コアを製造

精密積層プレス金型



FASTEC

Laser FASTEC

Glue FASTEC

モーターコア



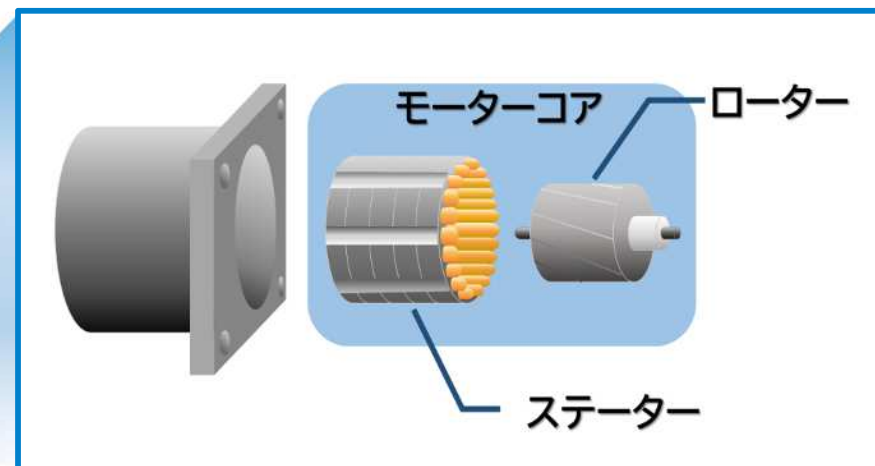
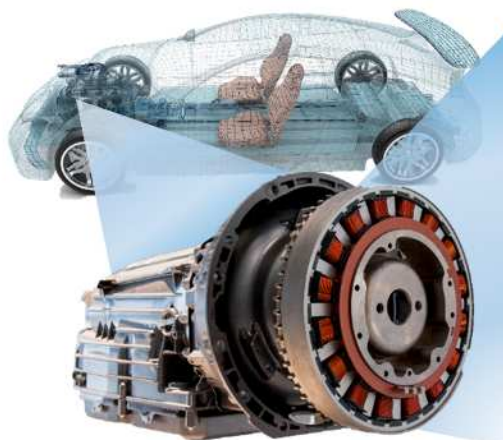
車載用など大型コア



家電用など小型コア

モーターコア採用例

- EV等車載用モーター
- トラクションモーター
- 家電用小型モーター
- サーボモーター



ゲージ製造で培った技術を基に、超精密・高精度の測定/加工を可能にする、工作機械、各種計測機器、要素機器を製造

工作機械



加工

電子部品・金型部品
医療機器部品・レンズ金型

精密測定システム



測定

シリコンウェーハ
液晶ディスプレイ回路基板

要素機器

ゲージ



ハイトリックツール



加工・計測・検査

油井管・黒鉛電極・自動車部品／
機械部品等の精度基準 ロボット減速機

MM ラボ

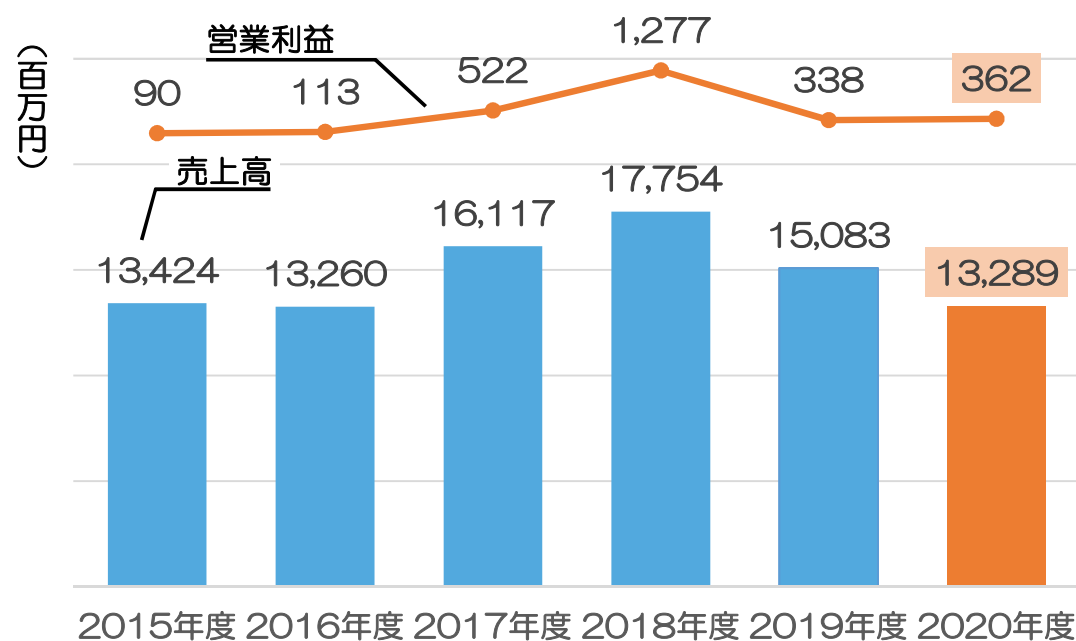
- ソリューション提案
- 商品/操作説明
- 加工テスト など



2. 2020年度（2021年3月期）業績

2020年度 連結決算概要

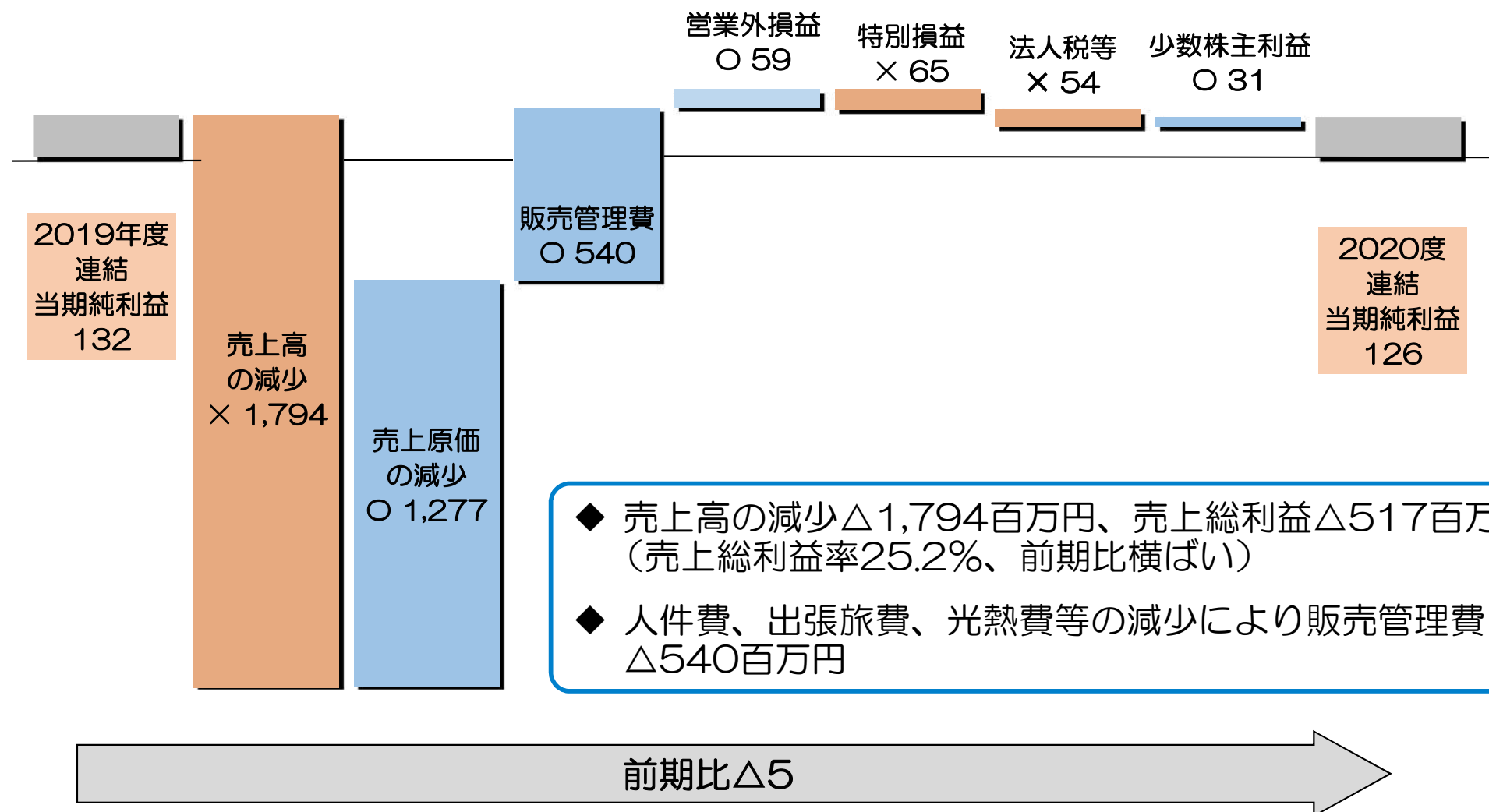
(単位：百万円)	2019年度 (20年3月期)	業績予想 20年11月12日付	2020年度 (21年3月期)	増減 (前期比)	増減 (予想比)
受注高	13,339	—	13,645	+306	—
売上高	15,083	13,200	13,289	△1,793	+89
営業利益	338	170	362	+23	+192
経常利益	275	80	357	+82	+277
親会社株主に帰属 する当期純利益	132	△50	126	△5	+176



- ◆ 前年比で受注高は約2%増加、売上高は約12%減少、営業利益は約7%の増加。
- ◆ 世界的な新型コロナ蔓延の影響で、受注は第2Q、売上は第3Qが底となった。
- ◆ 一方、中国市場の早期回復や半導体市況の好転により、売上面で第4Qに挽回を果たしまた経費抑制にも努めた結果、通期では営業/経常/当期利益とも黒字を維持。
- ◆ 新型コロナ対策費用、事務所フロア統合費用等により、当期純利益は前期比で微減。

前年度比連結当期純利益の変動要因

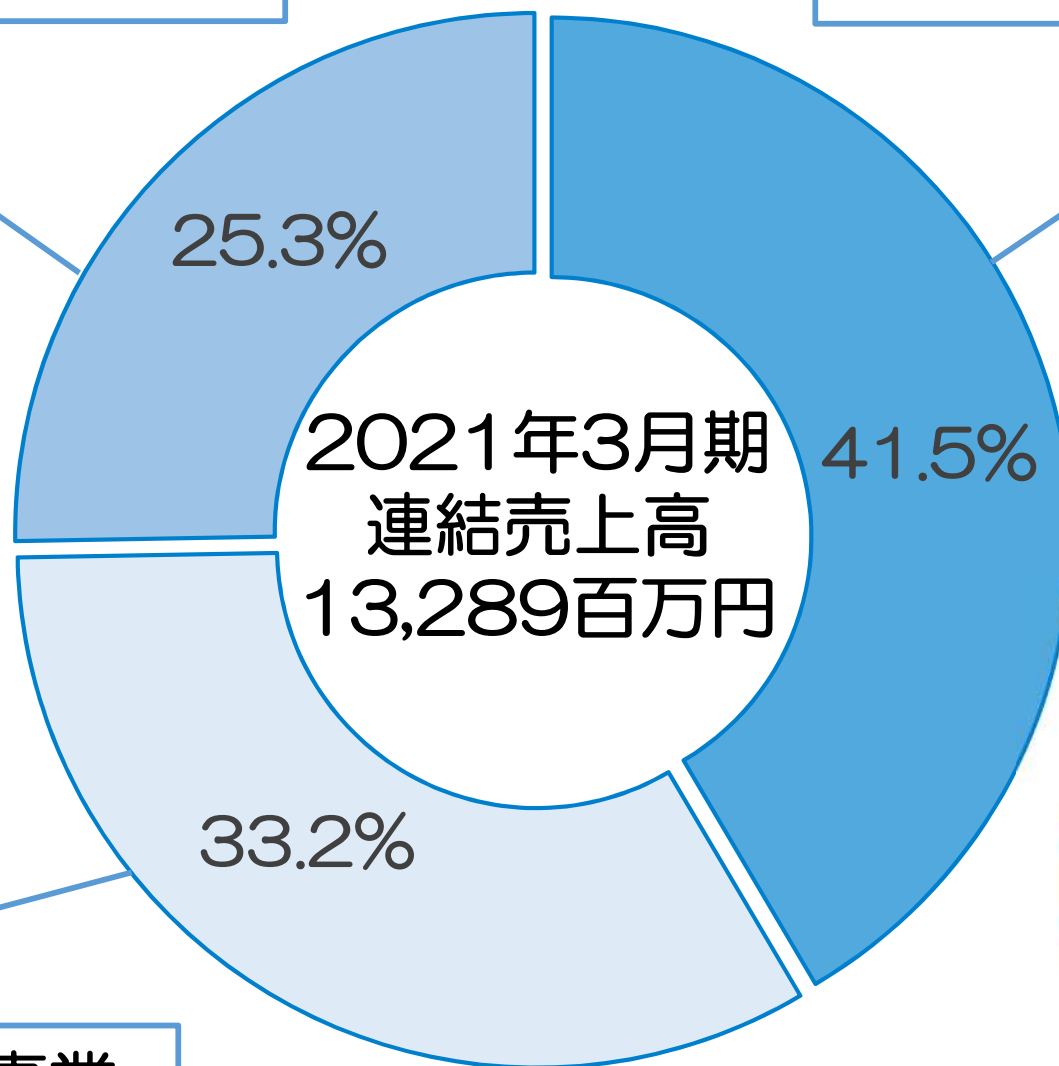
(単位：百万円)



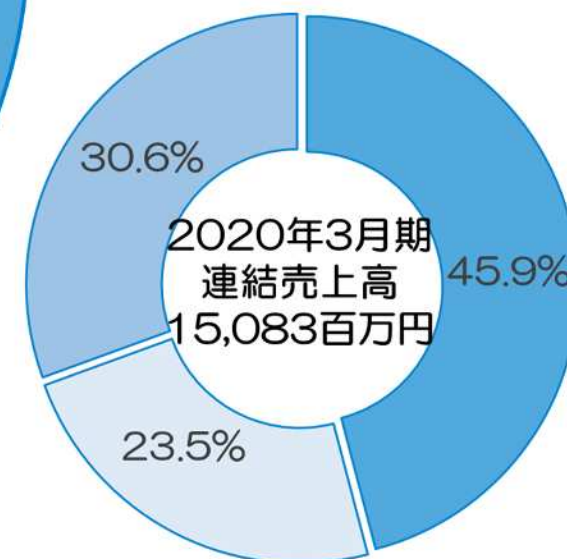
セグメント別概要（１）

機工・計測システム事業

駆動システム事業



金型システム事業



セグメント別概要（2）

	(単位：百万円)	受注高	売上高	営業損益
駆動システム事業		5,796	5,527	99
	(前期比増減)	(+895)	(△1,409)	(△259)

- ◆上半期は中国市場が牽引、年度後半からの半導体需要拡大で受注が急増、業績改善には目途
- ◆但し製造リードタイムの関係で、2020年度売上への反映は僅少に留まる
- ◆ユーロ圏での新型コロナ蔓延の影響等でドイツ子会社の業績が低迷

金型システム事業		4,561	4,414	226
	(前期比増減)	(+265)	(+862)	(+468)

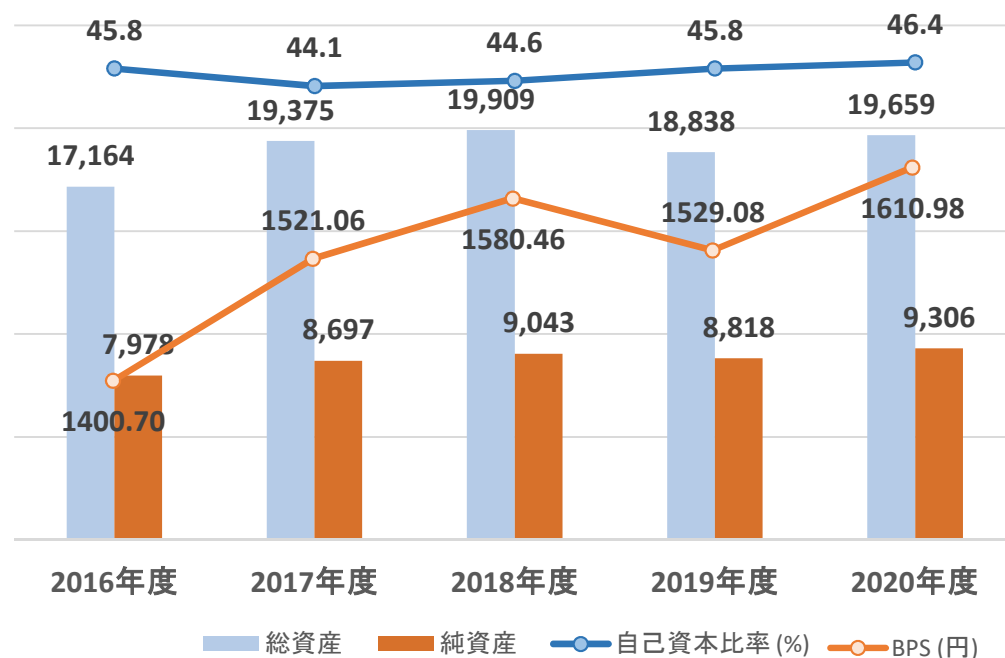
- ◆上期、新型コロナによるマレーシア子会社の生産停止（～5月まで）から下期は一転しフル操業へ
- ◆世界的なEVシフト加速で案件活発化、EVコア量産に向けた金型受注等で業績回復
- ◆中国EV市場攻略に向けた事業戦略（提携プロジェクト）を検討中

機工・計測システム事業		3,300	3,360	64
	(前期比増減)	(△860)	(△1,252)	(△191)

- ◆上期は新型コロナ影響で主要顧客のロボット/自動車業界の設備投資減退、国内工作機械市場は低迷
- ◆部分的には、中国電炉メーカー向け炭素電極ゲージの特需で要素機器は減収ながら増益を達成
- ◆電装部品を手掛ける100%子会社であった永昇電子（株）を吸収合併し、当事業部門に統合

連結貸借対照表

	2019年度	2020年度	増減
総資産 (百万円)	18,838	19,659	+820
純資産 (百万円)	8,818	9,306	+488
自己資本比率 (%)	45.8	46.4	+0.6P
1株あたり純資産 (円)	1,529	1,610	+81



- ◆ 総資産：流動資産+369百万円（売上債権の増加等）、固定資産+451百万円（投資有価証券の増加等）により+820百万円
- ◆ 純資産：その他包括利益累計合計額+439百万円（その他有価証券評価差額金、為替換算調整勘定等）を主要因として+488百万円
- ◆ 自己資本比率：46.4% 前年度比+0.6ポイント

2021年度通期業績予想

(単位記載の無い項目は百万円単位)	2020年度 (実績)	2021年度 (業績予想)	前期比増減率
売上高	13,289	16,800	26.4%
営業利益	362	700	93.1%
経常利益	357	550	53.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	126	340	168.4%
1株あたり年間配当金(円)	10円00銭	20円00銭	—
配当性向(%)	44.7%	33.3%	—

- ◆ 新型コロナウイルス感染症による国内経済活動への影響は当面の間継続
- ◆ 一方で、2021年度に於いては以下の市場環境予想のもと、売上高16,800百万円、営業利益700百万円、経常利益550百万円と、前年度比で増収増益を見込む。
 - ・ 2020年度後半から続く半導体関連の需要回復～拡大
 - ・ 中長期的な電動車関連市場の伸張
 - ・ 工作機械等の設備投資需要も年度内に回復基調

3. 中期経営計画 Vision2025

前中計の振り返り

Vision2020設計図

各事業においてグローバルニッチトップ
利益を伴う成長 (Profitable Growth)

収益力強化

値決め経営

生産技術・IT

開発力強化

ロードマップ

提案制度

VIPカスタマー戦略

顧客関係強化

PFKC

VIPカスタマー戦略

人財育成・働き方改革

コンプライアンス・安全・健康・環境・品質

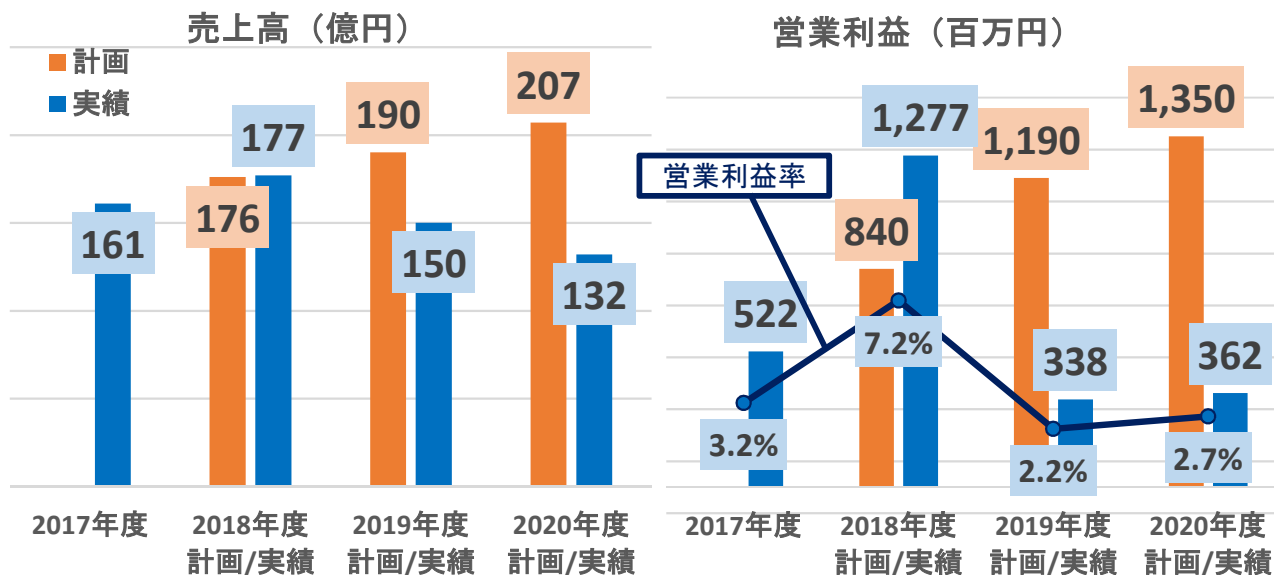
成果

- ・期間を通じて黒字を維持（連結／単体）
- ・設備投資継続、成長に向けた体制整備
- ・ESG経営の進展：環境方針策定、CO2排出量削減目標設定、BCP強化、働き方改革の推進

課題

- ・市場サイクルに大きく影響される収益構造
⇒ 不況期にも安定的に収益を稼げる体質構築
- ・各ニッチ分野での競争力向上
⇒ DXへの取組み本格化
- ・ESG経営の更なる進展

数値計画（連結） / 実績

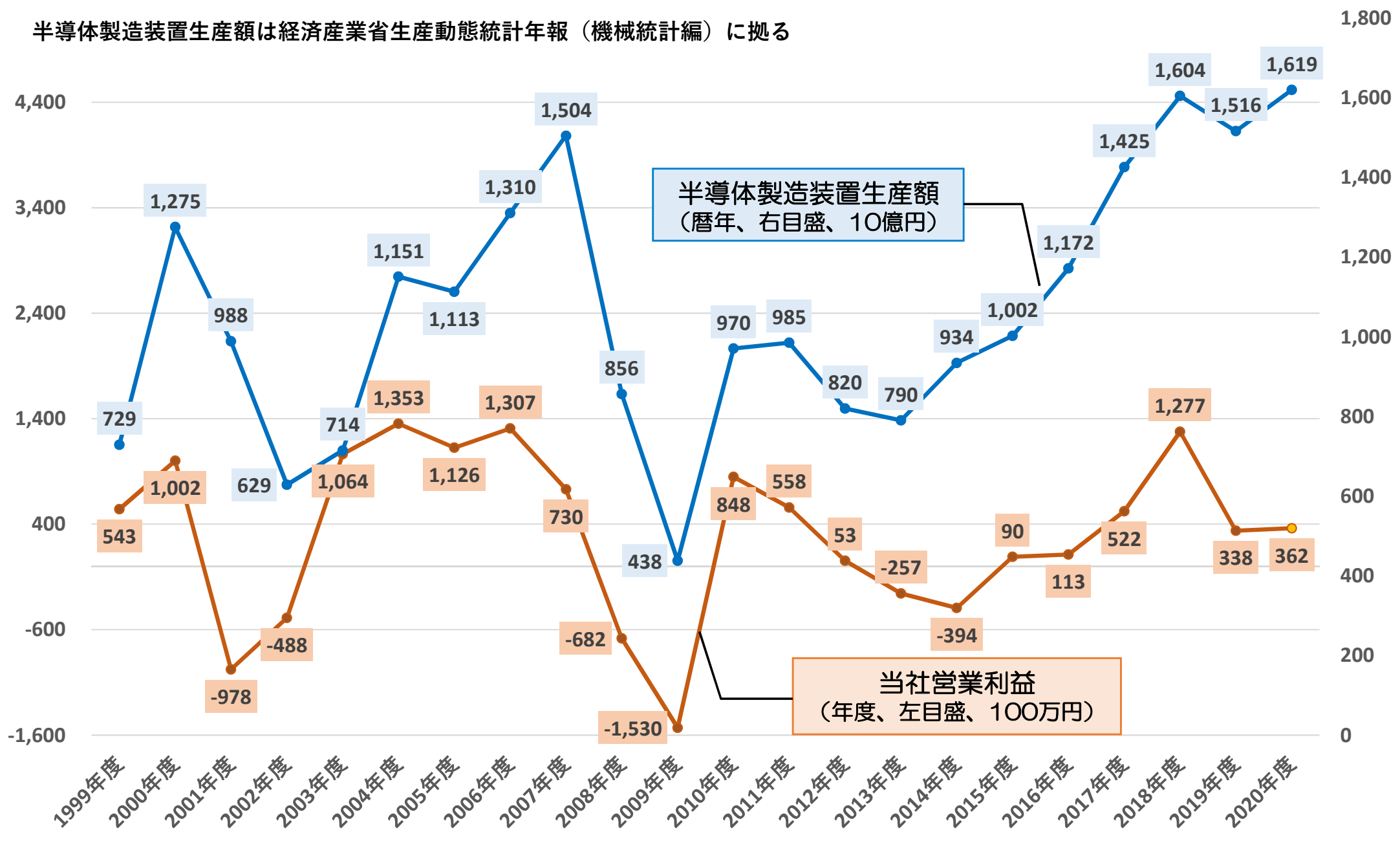


駆動：中小径ボールねじ生産の自動化ライン構築、稼働開始
金型：国内外でのEV用モータコア量産PJの獲得
機工計測：医療・光学分野等、成長市場の開拓

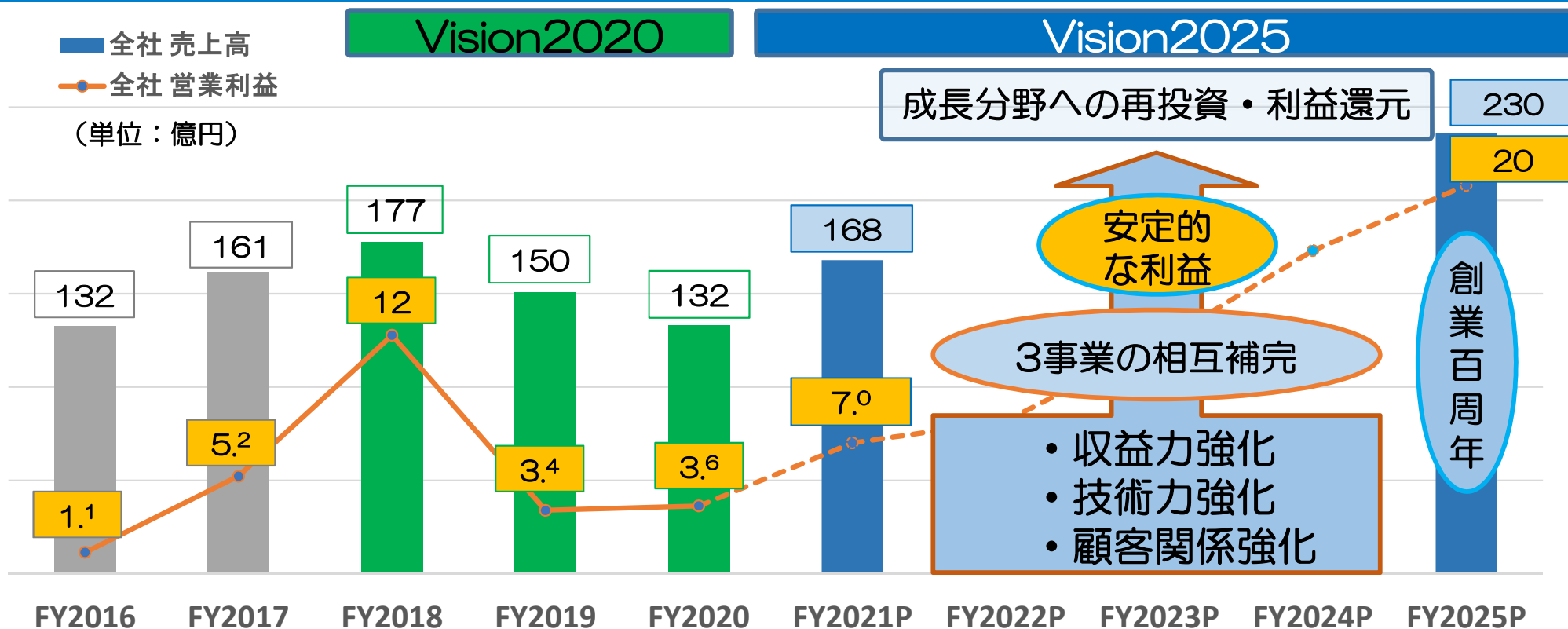
駆動：半導体以外の市場分野の開拓、顧客内シェア向上
金型：コア量産PJの立上げに向けた、金型供給能力の増強、国内外のアライアンス戦略
機工計測：カスタマイズ対応力強化による新商品開発、海外市場の開拓、商品毎のマーケティング戦略

参考資料：収益構造

半導体製造装置生産額は経済産業省生産動態統計年報（機械統計編）に拠る



新中計 Vision2025 の位置付け



- ◆ 新たな成長軌道への飛躍と安定的に利益を生む収益構造への転換を目指す5年
- ◆ 収益力強化・技術力強化・顧客関係強化を柱とした施策の実行、3事業の相互補完
- ◆ 全社ベースで安定的に収益を生み、成長分野への再投資と利益還元に充当
 - ・好況時の業績底上げと不況時にも安定的に利益を生む体質への改善
 - ・共通基盤としてのDX化の推進 ⇒ 生産性/品質の向上、柔軟な製造/販売体制の確立
カスタマーサービス向上 など
- ◆ ESG経営：環境投資の実行、働き方改革の推進、情報セキュリティ強化 など

精密技術を通じて世界の産業の高度化をサポートする

各事業においてグローバルニッチトップ
安定的な利益

収益力強化

値決め経営
自動化・生産性向上

技術力強化

ロードマップ
形式知化

顧客関係強化

市場多角化
VIPカスタマー戦略

人材育成・DX

コンプライアンス・安全・健康・環境・品質

金型システム

生産性・品質向上
提携先支援

駆動システム

納期短縮「誰よりも早く
お客様のニーズに応える」

機工計測システム

生産性・品質向上
多彩なソリューションの実現

スマートファクトリー／スマートワーク構想

生産性向上、品質向上、納期短縮

商品開発支援、知財管理支援、営業支援、海外業務支援

見える化



センシング→
複合データから
状況を可視化

生産管理／予防保全



設備の状況を監視→
異常感知、予兆管理
生産管理、品質管理

デジタルツイン化



シミュレーションによる試
作、性能評価→
設計リードタイム削減
手戻り最小化

匠の技の継承



熟練工の動きの
データ化→
加工ノウハウを機械
が継承

業務効率化



ITやRPAの活用→
業務の効率化、
工程管理・品質管理
の刷新

カスタマーサービス

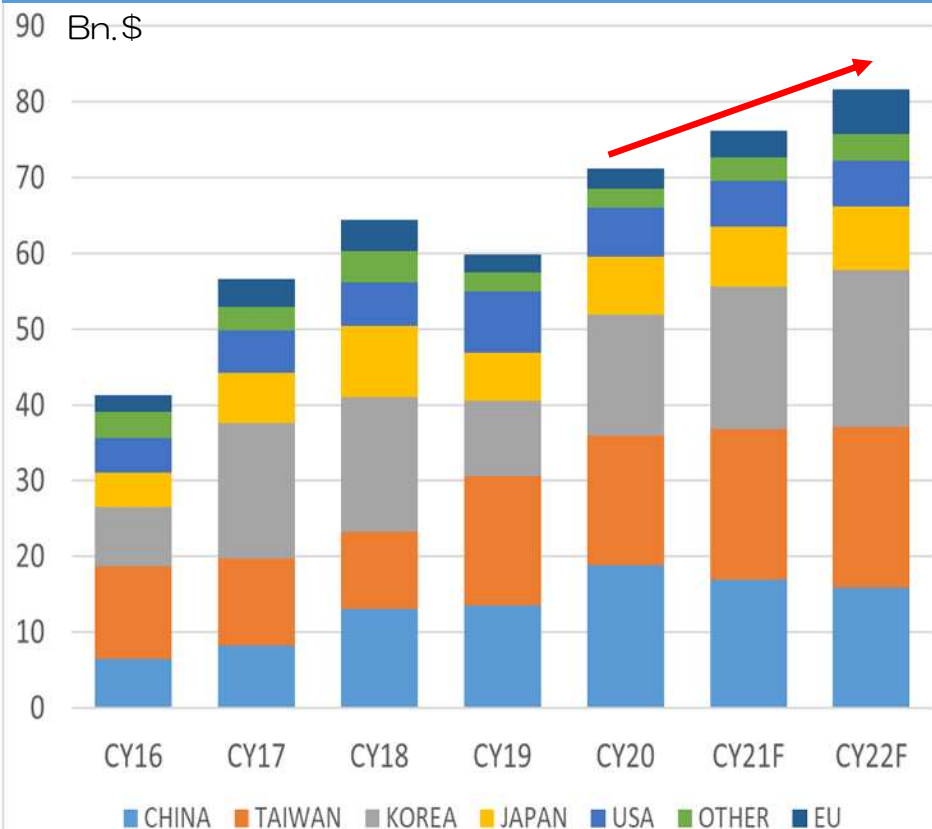


出荷後の使用状況をモ
ニタリング→
遠隔保守サービス等
ユーザーメリットとなる
サービスの提供



誰よりも早くお客様のニーズに応えられる
小型直動システムメーカーになる！

世界市場での半導体製造装置への投資動向



出典：SEMI World FAB Forecast report (2021.03.16)

＜事業環境＞

- 半導体需要の拡大、用途の更なる拡大
- 主要市場（半導体製造装置）での需要増加
- 医療/検査等、新たな成長分野での需要拡大



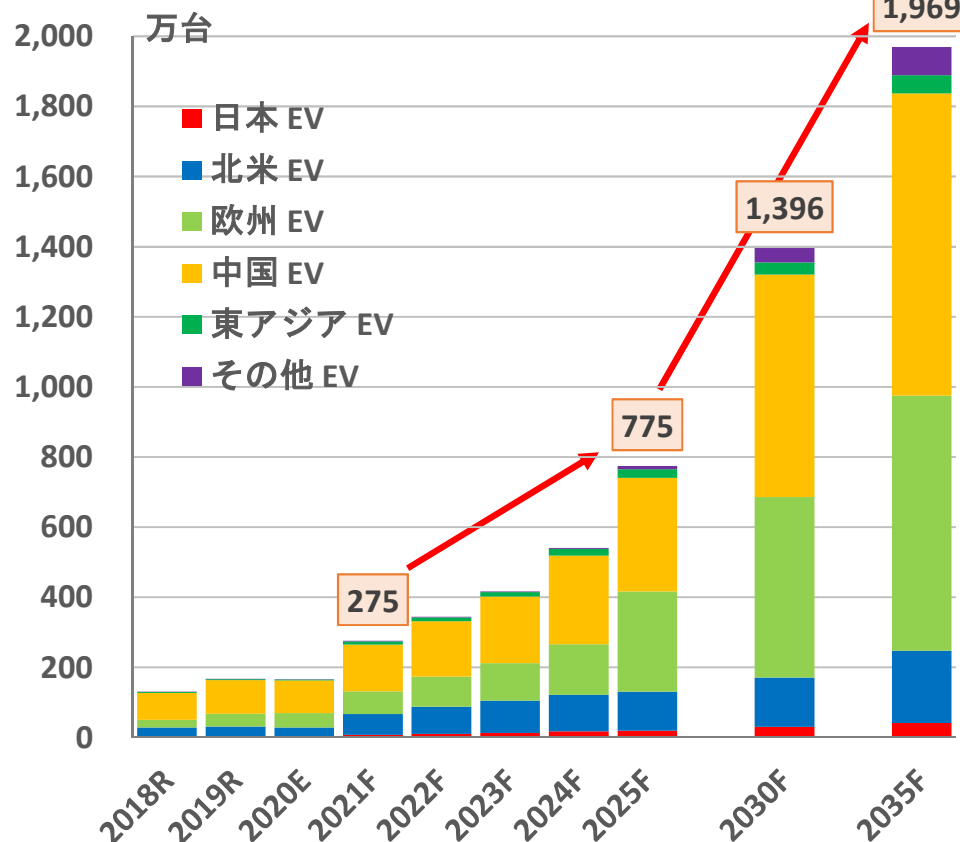
＜事業戦略＞

- 自動化生産ラインの有効活用、技能育成、及び生産管理強化による納期短縮（DX）
- 国内外営業/流通体制の強化
- 半導体以外の分野開拓、顧客内シェア向上
- 直動システム事業の強化



高効率モーターコアのスペシャリスト
駆動モーター用大型金型でNo.1
薄板コアでNo.1

地域別EV車市場規模予測



出典：富士経済 HEV,EV関連市場徹底分析調査（2020年版）

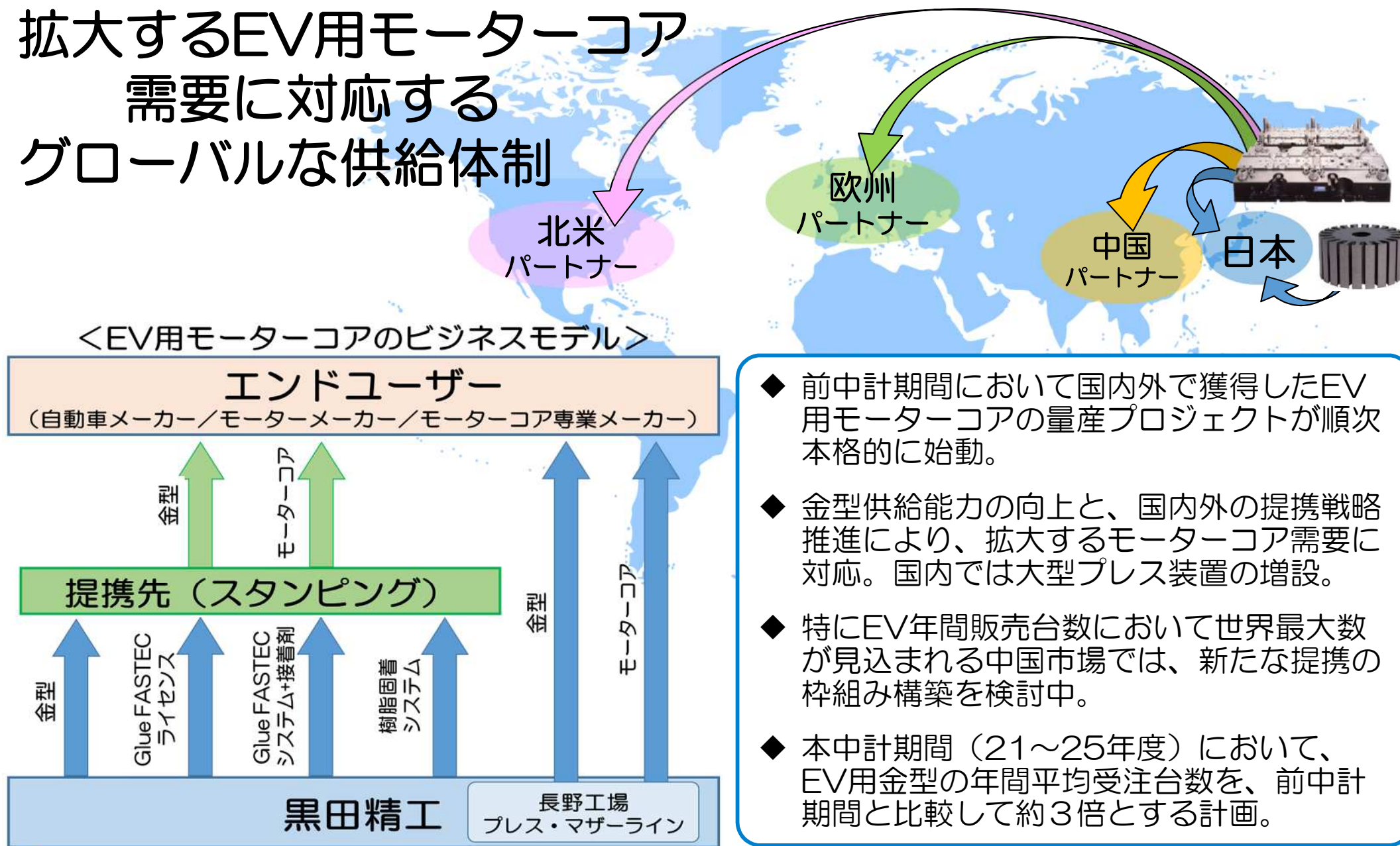
＜事業環境＞

- ・グローバルな脱炭素化の流れ加速
- ・車載用/家電用とも高効率モータ需要の拡大
- ・中国EV市場の急拡大

＜事業戦略＞

- ・コア量産プロジェクトの確実な推進
- ・PJマネジメント力強化、採算管理の強化
- ・金型/コア製造プロセスの形式知化（DX）
- ・国内外に於けるアライアンス戦略推進
- ・EV主戦場=中国で新たな提携の枠組み構築

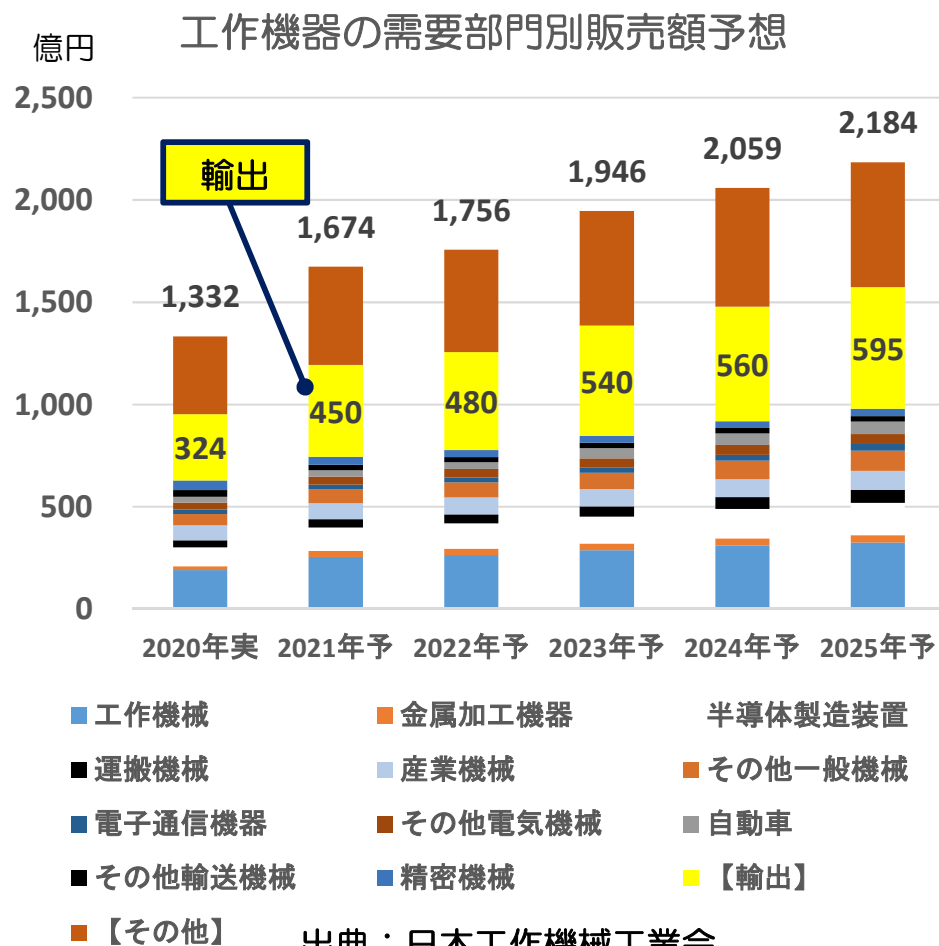
拡大するEV用モーターコア 需要に対応する グローバルな供給体制



- ◆ 前中計期間において国内外で獲得したEV用モーターコアの量産プロジェクトが順次本格的に始動。
- ◆ 金型供給能力の向上と、国内外の提携戦略推進により、拡大するモーターコア需要に対応。国内では大型プレス装置の増設。
- ◆ 特にEV年間販売台数において世界最大数が見込まれる中国市場では、新たな提携の枠組み構築を検討中。
- ◆ 本中計期間（21～25年度）において、EV用金型の年間平均受注台数を、前中計期間と比較して約3倍とする計画。



確かな計測と加工技術で
Smart Solution プロバイダーを目指す！



＜事業環境＞

- ・ 21年以降国内市場は回復基調、輸出も拡大
- ・ 医療/検査、ロボット、EV等で新規需要
- ・ 中国、アジア圏の市場拡大

＜事業戦略＞

- ・ 新商品/ソリューション開発
- ・ 生産/品質管理の抜本的改善（DX）
- ・ 海外販売/サービス提供体制の強化

計画期間グループ全体で**73億円**程度の
設備投資、研究開発投資、および事業投資を実施
(事業環境・受注環境に応じ段階的に実施)

本社 **約14億円**
DX化投資、環境対応投資 等

駆動事業 **約25億円**
自動化ライン拡張、ねじ研削盤 等

金型事業 **約26億円**
大型プレス装置、マシニングセンタ、事業提携 等

機工計測事業 **約5億円**
加工センター、円筒研削盤 等

海外子会社 **約3億円**
設備更新 等

Environment 【環境】

- 環境方針の順守、環境マネジメントの継続的な改善
- CO2排出量削減目標（国内）の達成に向けたアクション
2018年対比 ⇒ 2030年△29%、2050年△80%
（新たな政府方針を受けた、目標値の見直しと計画の再設定）
- 環境負荷の低減に貢献する分野での事業展開
例）電動アクチュエータ、新エネルギー車駆動用モーター
エコセーバ（微小切削油供給機）

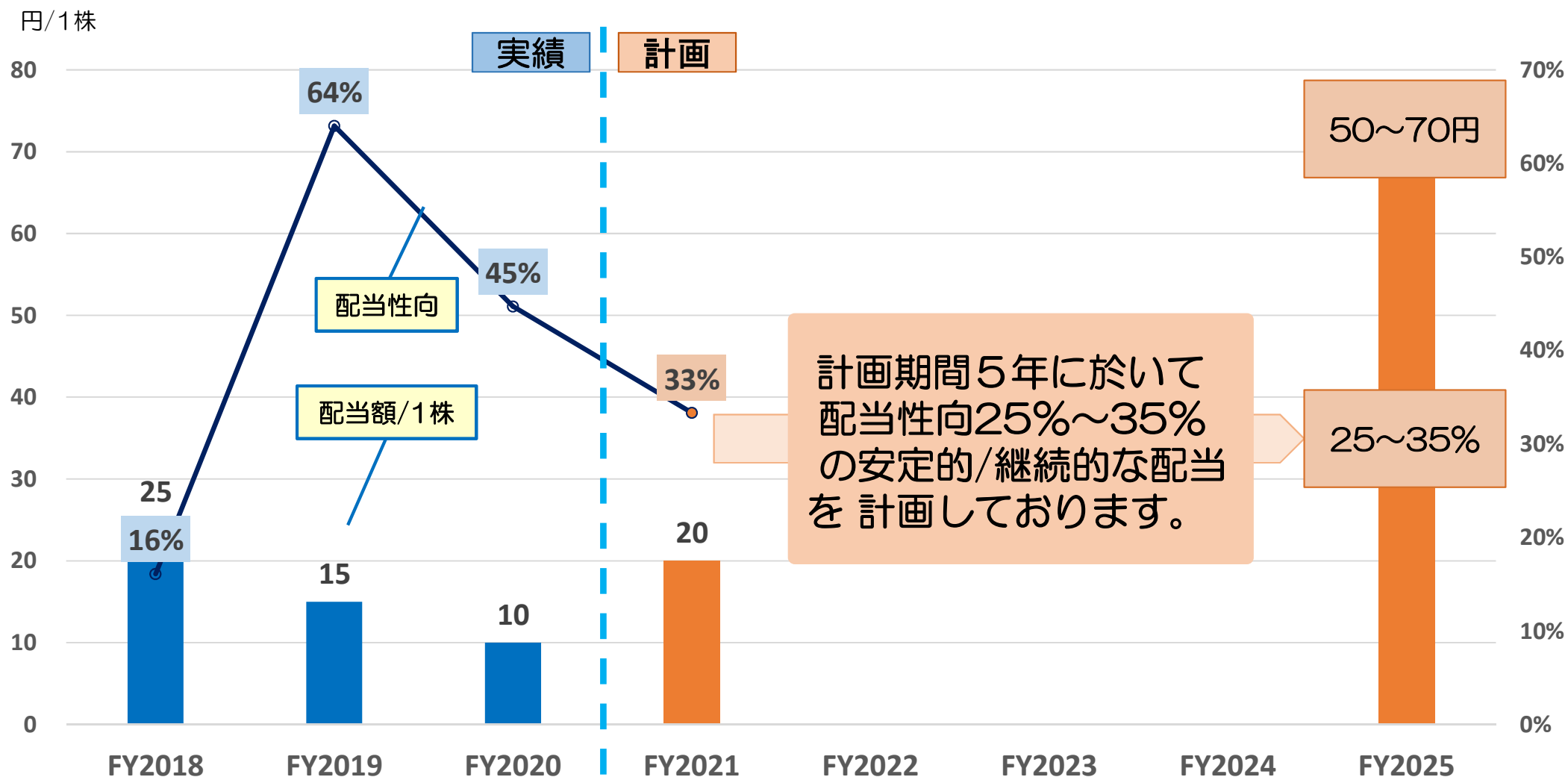
Society 【社会】

- 品質・健康・安全第一への継続的取り組み
- ワークライフバランスと多様性、高齢化社会に配慮した人事制度の拡充
- 人財ロードマップに基づく人財育成
- 働き方改革の更なる推進 ⇒ DXを活用した業務効率化
- ポストコロナ時代のスマートワーク構想の具体化

Governance 【ガバナンス】

- グループ全社でのコンプライアンス、内部統制制度の徹底
- DX化に対応した情報セキュリティ管理の強化

企業体質強化のための内部留保の充実を勘案しつつ、業績に裏づけされた安定的な配当を継続して行うように努めます。



	前中計		新中計	
成長性	売上高	【2020年度】 200億円	売上高	168億円～230億円
収益性	営業利益	安定的に10億円 の営業利益	営業利益率	4%超～8%
効率性	ROE	【2020年度】 7.3%	ROE	5%超～10%
安定性	—	—	自己資本比率	45%以上
配当政策	—	—	配当性向	25%～35%
投資戦略	—	—	総投資額	計画期間（5年）中 73億円程度の規模

- ◆ 当資料は、投資家の皆さまに黒田精工株式会社への理解を深めて頂く事を目的として、経営や財務に関する情報を提供するものです。
- ◆ 当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。
- ◆ 当資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠することなく、ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】

黒田精工株式会社 経営企画室 IR担当

TEL：044 - 555 - 3800

ホームページ：<https://www.kuroda-precision.co.jp>